

## 愛知県教育振興基本計画（仮称）検討会議部会委員意見概要

## 1 各部会での議論のテーマ

部会	開催日	テーマ
第2回第1部会	7月12日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の向上と確かな学力の育成</li> <li>・特別支援教育の充実</li> </ul>
第3回第1部会	7月23日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の支援</li> <li>・信頼される学校づくり</li> </ul>
第4回第1部会	8月30日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の充実</li> <li>・多文化共生を推進する教育の充実</li> <li>・いじめ・不登校等への対応の充実</li> </ul>
第2回第2部会	7月12日（月）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳性と社会性の育成</li> <li>・基本的な生活習慣の確立と健やかな心と体の育成</li> </ul>
第3回第2部会	7月30日（金）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の支援</li> <li>・幼児教育の充実</li> </ul>
第4回第2部会	8月25日（水）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化を尊重する心や文化芸術を理解し創造する力の育成</li> <li>・環境学習の充実</li> <li>・信頼される学校づくり</li> </ul>

\*生涯学習の支援と信頼される学校づくりは両部会で議論

## 2 各部会における委員の意見概要

### ○ 第2回第1部会（7月12日（月））

#### **学習意欲の向上と確かな学力の育成**

- ① 少人数指導の有効性について手ごたえを感じている。国の動向を踏まえることは当然だが県独自の施策をこれからも打ち出していただきたい。
- ② 人の配置が教育効果の大きな条件であり、市町村の経済力の格差が現れないよう国がきちんとした人の配置を責任を持ってやってほしいと思う。
- ③ たとえば中学校では生徒指導、進路指導、部活の問題があり、指導力、授業力を上げていきたいが、どうやって教員の時間の確保をするのが課題。
- ④ 授業力の向上について、（教員がお互いの授業を通じて研修する）授業塾のような取組は底上げをしていく上で非常に良い取組と思う。
- ⑤ 団塊の世代の大量退職が続くこの時期に教育理念や技術を次の先生方に継承していくことが大きな課題と思う。
- ⑥ 地域人材を呼ぶというのは、ある意味で指導者の教員が力をつけるという目的もあると思う。
- ⑦ 地域とか地域の産業に貢献をしたいという意欲を育てていくことは非常に大事と思う。
- ⑧ 学校で学んだことがどこかで役立つという姿勢で学べる必要がある時代ではないかと感じている。

#### **特別支援教育の充実**

- ① 特別支援教育が充実してきていると思う。もう少し、小・中・高等学校が前面に出てくるといいのかなという気がしている。
- ② 全国の中でも愛知県は障害種別で頑張っている。
- ③ 県立の特別支援学校が地域の拠点として、専門的な立場から公立小中学校の指導、助言をすることは、現場の先生たちの研修という意味からも有効と思う。
- ④ 養護学校の過大化解消について、計画に表記していただけるといいと思う。
- ⑤ 多くの場合（障害のある方は）市町村に戻ってくる。市町村が核となってやっていかないと結果的に生活が繋がっていかない。教育相談や教員の研修など市町村の事業にのっかる形で発展的にやっていただくとありがたい。

### ○ 第3回第1部会（7月23日（金））

#### **生涯学習の支援**

- ① 今は忙しい方が多いので、インターネットを使った講座を考えてはどうか。
- ② たとえば退職された職人さん方が、学校でモノづくりについて先生と一緒に子どもたちを指導する取組など、団塊の世代の技術や知恵を生かす取組も考えられるのではと思う。
- ③ 「子育ての社会化」ということが非常に大事なことはないか。
- ④ 親のための研修会や子育てのための研究をやることは、今まで以上に大事になっていくと思う。

- ⑤ 個々に対応しなければならないような状況の家庭に対しては、どのような人がどのように関わっていくのかが大きな要素であり、充実を望みます。
- ⑥ 総合型地域スポーツクラブの現状の課題や問題点について、市町村を支援していただき、市町村もがんばれるような体制でやっていただくことが大切だと思う。
- ⑦ 障害のある子どもたちが学校を卒業し自分の住んでいる町に帰ってきたときに、地域社会として支援していく方向を出していかれたらと思う。

### **信頼される学校づくり**

〔開かれた学校づくり〕

- ① 社会人が学校教育活動へ参加することを通じて、子どもたちと関わり、今の子どもの状況を知ること、地域や家庭で子どもたちのために何をしたらいいのかを考える大きな材料になる。
- ② 特別支援学校では、地域の方が子どもたちとの交流を通して学校評価をしている。地域に知ってもらえるいい機会であり更に広げていかれたらと思う。
- ③ 特別支援学校では教員免許取得のための大学生の介護等体験を受け入れている。特別支援学校や子どもたちの実態を知った学生が、教員になっていくことで、特別支援学校が充実、発展していくと期待している。

〔学校教育の質の向上〕

- ④ 先生は学校の中でしか活動していないので、民間企業での経験や、いろいろなところでの教職経験などを持つ多様な人材の確保は必要と思う。
  - ⑤ 教師自身が自分の勤務態勢の中で児童生徒と向き合う時間を確保する努力をしなければいけないが、人的配置についても考えていただきたい。
  - ⑥ 学校教育の質の向上のため、施設・設備（の整備）についても触れるべき。
- 〔家庭・地域の学校運営への理解と積極的参加〕
- ⑦ 教員や学校はオールマイティではない。いろいろな方々が生活を支えていてその中に学校教育があると思う。
  - ⑧ 学校評価について、学校がいつも受身でなく、保護者が学校に参加していくという意識を持たないと、連携は進まないと思う。

## ○ 第4回第1部会（8月30日（月））

### **キャリア教育の充実**

- ① 家庭、地域、事業所、社会のすべての中で子どもを育てることが大人の責務であるという観点からのメッセージがほしい。
- ② 一般の方向けに「キャリア教育」という用語の丁寧な説明が必要と思う。
- ③ 特別支援学校では担当の教員が企業を回って、とりあえず実習だけは行っているが、なかなか就労に結びつかない。関係者との連絡会議も開催しているが、もう少し理解が深まるようなことが出来ないかと思う。
- ④ 自宅で訪問教育を受けている子どもたちは、社会とのつながりがなかなか出来ない。そういう子どもたちの支援方策も何かあるといいと思う。

- ⑤ 特別支援学校では職場実習に至っていること、それまでにかかなりの労力が費やされていることを評価したい。障害の理解と支援の内容についての理解がないとどうしようもないが、それが一番大事だと思う。
- ⑥ キャリア教育の充実はよいこと。教員の方はかなり忙しいと思うので、職場体験を行う上で、コーディネーターの方を活用していただくことも考えてはどうか。
- ⑦ 主体性やコミュニケーション能力は、人生の夢を実現する上で必要。小学校段階からそういう力を養っていくことが出来たらいいと思う。
- ⑧ 企業にとっても本人にとっても、ある程度の期間がないと十分な体験は出来ないと思う。体験後、地域に個人的なレベルで参加していくというような視点が将来的にあってもいいと思う。
- ⑨ 小学校から中学校になるとなんとなく夢も減ってくるし、難しいことに挑戦しないようになってくる。失敗を恐れずに挑戦してほしいと思う。

#### **多文化共生を推進する教育の充実**

- ① 私たちは（外国人児童生徒に）日本語または日本文化を指導していくが、一方的なものの見方をしていないだろうかとを感じる。
- ② 日本の子どもたちの多文化共生と日本の国際化、外国の子どもたちが日本をどう理解して、日本をどう見るかという意味で多文化共生は重要。
- ③ 大勢の外国人が住む地域の保育園では、子ども同士にはあまりトラブルはないが、親御さんも含めて保育士さんとはうまくいかない。価値観が入り込むことによって違和感が生じてくるからだと思う。外国の方にとってみたらどうか、どちらが主体なのか、難しいと思う。
- ④ 多文化共生を推進する教育のメリットも打ち出していくとよい。
- ⑤ 外国語の堪能な者の選考はぜひ推し進めていただきたい。
- ⑥ 保護者の理解を深めることも強調すると先生方にとって心強いのではないかと思う。
- ⑦ 国際理解から一步踏み込んだ、日常レベルの活動に結びつくような教育について、多文化共生の意識づくりを推進していくことが必要と思う。

#### **いじめ・不登校等への対応の充実**

- ① 発達段階に応じた取組が必要ではないか。たとえば小学校の低学年段階から充実した指導が必要ではないかと思う。
- ② 地域は結局一つなので、今ある地域の既存の協議会としっかり接続し、手を携えていくように、子どもに（家庭問題も含めて）より柔軟に対応していくよう配慮するとよいと思う。
- ③ スクールカウンセラーの力は非常に大きい。
- ④ 早期発見、早期対応という観点が必要と思う。不登校にならないという方向に本当は持っていかなければならない。
- ⑤ 背景は様々だが不登校はその子にとって不幸なことであり、何とか一人で

も学校へ来れるようにしたい、という強い思いを述べていっていただきたい。

- ⑥ 学校が個々の子どもにとって存在感のある場であるかどうかということ意識しながら進めていくことが大事だと思う。
- ⑦ 心的理由で来れない子、どこへ行ってしまったか分からない子など（状況に合わせて）学校ではいろいろな対応をしている。ひとくくりで考えるのは難しい。

○ 第2回第2部会（7月12日（月））

**道徳性と社会性の育成**

- ① 小学校、中学校、高校だけでモラルの向上になるわけではないので、県民一丸となってできる取組になるのがよい。
- ② 子ども以上に親に問題があるということを目にする。学校だけでなくいろいろな場面からいかないと（取り組まないと）できないところだと思う。
- ③ 家庭教育、家庭モラルといったものを幼稚園、保育所の時代から考えさせる機会を作っていただきたいと思う。
- ④ 体験を通して考えさせる授業など道徳教育の指導法を研究していかなくてはならない。
- ⑤ 保護者や地域の人たちへの啓発という意味でも道徳の授業の公開はぜひ取り上げていただけるといいと思う。
- ⑥ 高等学校では道徳教育の時間はないが、いろいろな場面で道徳教育をしていこうという状態になっている。次の親になる世代はきちんと社会性を学ばせなければならないという気持ちでいる。
- ⑦ 道徳教育について、道徳の授業だけでなく全体の授業を通じてというようなことが盛り込めないかと思う。
- ⑧ これは家庭でこれは地域でという方向性も話し合えたら参考になると思う。
- ⑨ スポーツや文化活動など地域で教育するものはいっぱいあり、地域の大人との関わりの中で、コミュニケーション能力なり、規律なり地域から教えていくことができると思う。
- ⑩ 社会貢献への意欲の高い若者が自己実現しながら、社会に参加していくことを盛り込めたらと思う。
- ⑪ しつけの仕方で極端な捉えかたをされる方も大勢見える。しつけはとても大事なことです、勘違いを少し危惧します。
- ⑫ 教員や保護者も含め大人の情報モラル教育が必要。

**基本的生活習慣の確立と健やかな心と体の育成**

- ① 朝食欠食の解消を通じてバランスの取れた規則正しい食習慣を身に付けるということをきちっとやっておかないといけないと思う。

- ② 朝食を食べていない子どもたちに対する指導には、栄養教諭の動きが重要になってくると思う。
- ③ 学校保健委員会での取組をさらに進めていってはどうか。
- ④ ダイエットを始めてみようとか、誰かに食べさせたいとか純粋な気持ちで食を考える時期に、いい情報を流すことが重要だと思う。
- ⑤ 一番体を元気に動かす高校生がきちんとした昼食をとっていない。たとえば給食のように十分な食事を摂らせることができないか。
- ⑥ 中学校、高校での規則正しい食習慣を身につける取組が必要。
- ⑦ 地産地消が言われており、大根の業者と連携して農業体験をやってみようと思っている。
- ⑧ 食習慣だけでなく、睡眠や運動など生活習慣全体の中で基本的な生活習慣をどうしたらいいかを考えてほしい。
- ⑨ 日常生活の中で、体を動かす意識を付けるということも、重要だと思う。
- ⑩ たとえば地域の指導者に教えてもらうというような、学校の体育の授業だけでないところの体力づくりを図っていく必要があると思う。
- ⑪ 子どもたちが楽しみながら、あるいはお年寄りが自分の健康のために運動が身に付いていくような愛知県版体力向上プログラムをぜひ開発してほしい。

○ 第3回第2部会（7月30日（金））

**生涯学習の支援**

- ① 海外ではたとえば博物館で、休日に親子やいろいろなグループが勉強している。日本のたとえば豊橋市には、自然科学博物館という良い施設があるが活用されていない。幼い子どもと父、祖父母などが一緒に勉強できるテーマを設けると、活用されるのではと思う。
- ② 県内には多くの社会教育施設があり、様々な学習機会を提供しているがその情報がなかなか伝わらない。民間機関も含めてそういう情報が一元化して閲覧できるように考える必要がある。
- ③ たとえばスポーツでは、国が方針を決めて県はさわやかプランを作って、町に下りてくる。縦に上手く（途切れることなく）流れ、われわれのところで横に広がっていくようにしてほしい。
- ④ 市町村でも開かれた学校を目指して、聴講生制度により小中学校で地域の人が授業を受けている。
- ⑤ 虐待について現実に大きな問題となっており、触れる必要があると思う。
- ⑥ 子どもたちに安全で安心な、安定した家庭環境を提供しないといけないという意識を、両親はもちろん地域も持つ必要がある。

**幼児教育の充実**

- ① 早寝・早起きの効果について、大脳生理学の面から説明すると、生徒はしっかりと理解してくれた。理解すれば行動に移せる子どももいるというこ

とを強く感じた。

- ② 保護者以外の祖父母だとか、少子化に対しての子育てへの関わりとかしつけとかの視点を入れてはどうか。
- ③ 親と子だけの問題ではなく、祖父母、中学生や高校生の兄弟として（幼児の教育に）影響を与えたいと思う。家庭教育をしっかりと学校教育が更にすばらしくなる。
- ④ 地域における地縁的つながりの希薄化に対しての啓発や働きかけ、企業が地域の行事に参加するために休暇を取りやすくするなどの、大きなベースとなる取組が必要だと思う。
- ⑤ 親も子育てに不安を抱えており、親に子育ての喜びを感じてもらえるような支援について、幼稚園教育要領にあるようにしっかりとやっていただきたいと思う。
- ⑥ いろんな機会を作って、小学校・幼稚園・保育所が交流することで、お互いを理解することができ、問題点も把握できることから、スムーズな連続、ギャップを減らすことができると思う。

#### ○ 第4回第2部会（8月25日（水））

##### **伝統文化を尊重する心や文化芸術を理解し創造する力の育成**

- ① 芸術文化への理解は、たとえばトリエンナーレなどで多くの国のいろんな表現手段・価値観を持った人たちの作品を通じて、多様な価値観があることを知り、交流をしていくことで、最終的には相互理解や交流ができる人材を育てていくことにつながる。
- ② 著作権の問題があるかとは思いますが、世界に愛知県の文化・芸術を発信できるようなものも今後検討していけないか。
- ③ 子どもや地域の人々が文化財の保存活動に関わっていくことを、推進してほしい。
- ④ 伝統文化をその地域に住む人たちが参加し継承しようとする、または地域をきれいにする運動は是非推進していただきたい。
- ⑤ 伝統文化を尊重するには、先祖や祖父母を尊敬する、敬う気持ちを子どもたちに訴えていくことが必要だと思う。

##### **環境学習の充実**

- ① 高等学校では生物の授業で今、環境学習をしっかりと教えている。小・中からの継承、連携がしっかりとされていけば、理科の教育の中でもしっかりと進めていけると思う。
- ② 人間が生活していく上ではどうしても環境に影響を及ぼすということを小・中学生から知っていることは非常に重要だと思う。それぞれの地域で特有のものを学ぶ場はあると思う。

## 信頼される学校づくり

〔地域に根ざした学校づくり〕

- ① 地域に根ざした学校づくりはこれからも課題としていくべきと思う。
- ② 中学校の「あいち出会いと体験の道場」は、さらに発展していくようお願いしたい。
- ③ いい学校づくりをしていくには、誇りある学校と感ずるかどうかが大切。  
愛知スーパーハイスクールで和太鼓を指定していただいた。和太鼓部があるということだけで学校全体が誇りを持っているし、地域も知ってくれる。  
〔優秀な教員の確保と指導力の向上〕

- ④ 授業力の向上は大きな課題だと思う。教員は1年目から子どもの前に立ちほとんどの場合担任を持つ。初任者研修は、研修で抜ける時には後補充がつくが、より良い方法はないかと思う。
- ⑤ 新任の先生にとって学校にいるのが一番の研修とは思いますが、長い目で見れば研修会もいい。両方並行してやっていくのかなあと思う。
- ⑥ 美術の分野だけではなく、専門教員が減っているあるいは非常勤で埋められているようでは、(美術館等との)信頼関係も実践もできない。
- ⑦ 教員は文化を知っておくべきと思う。県の施設に教員が子どもたちのために行く場合に優遇してもらえれば、自発的に勉強できると思う。
- ⑧ 美術館から小・中学校に働きかけても、先生が美術に親しんでいないと、子どもたちに十分説明できないため、行くのを躊躇することがあると思う。  
〔児童生徒と向き合う時間の確保〕

- ⑨ 児童生徒と向き合う時間の確保が一番の課題と思う。ぜひ教員の定数改善をお願いしたい。できればプラスアルファも。
- ⑩ コンピューターが導入されても事務的な効率が上がったとは感じていない。効率化についてはさらに検討してほしい。
- ⑪ パソコンやICTのいろいろな機器は、校務とか教材作成だけでなく、たとえばスクールコンタクトのように宇宙と交信したり、芸術関係ではアーカイブを活用したり、ICTの技術を活用してほしい。
- ⑫ ICTを使う人だけが使い、使えない人が取り残されてしまわないようサポートをしてほしい。
- ⑬ 学校に負担をかけないで、県教育委員会を含めて一体になって取り組める横浜市の事例を紹介します。「自己づくりスキル」「仲間づくり・集団づくり」という二次元の軸上に、学級の中での子どもの状況を位置付け、それに対応した体験プログラムを実施するというものです。プログラムは一覧表で沢山用意されています。県教委でいいプログラム一括して持てば、学校にとって役立つ方法と思います。アンケートで子ども自身が位置付けを行うものもあり、横浜市ではこれらを指導主事が社会的スキルを伸ばす専門教育として進めています。